# 2024年度おきなわ県民カレッジ主催
# 宮古地区広域学習サービス講座

参加費
200円
保険料

# 「宮古の祭祀に託された神話」

講師：佐渡山（さどやま） 安公（あんこう）氏（宮古伝承文化研究センター所長）

日時：2024年10月12日（土）

受付・13:30～　開講・14:00～17:00

場所：宮古合同庁舎5階（研修室）

定員：30名（申込み順）

※視察もあります。移動は各自でお願いします

主　催：沖縄県教育庁宮古教育事務所

（砂川（すなかわ） 晃輝（てるき）社会教育主事、砂川（すなかわ） 尚輝（なおき）生涯学習Co）

電　話：０９８０-７２-３２２２

申込み：↑電話↑　または　Googleフォーム⇒

# ［講話資料］祭祀に託された神話　(ビデオ報告)

## ① ナーパイの祭祀　(砂川)

城辺字砂川の上比屋で毎年、旧暦の3月初酉の日に行われる津波除けの行事。

昔、天帝が宮古島に人の世を創造するためにボナサリャ(娘)を使わす。ボナサリャは宮古島で最初に出会ったティンテク(男)との間に、サーニャー(男の子)を産む。

この子が7歳の頃、宮古島は大津波の被害にあう。両親が亡くなったサーニャーは叔父さんに育てられる。サーニャーが15歳の頃、竜宮から使わされた娘ウマニャーズと夫婦となる。夫婦の間には7人の男の子と7人の女の子をもうける。この子らが大きくなるとウマニャーズは自分の役目は終わったと言って、竜宮に帰って行くが、津波除けの儀式、ナーパイ祭りを伝授したという。この祭祀の中に神々を称える神歌や船漕ぎアーグ、ナーパイ(縄張・結界)等が伝わっている。

## ② ンナフカの祭祀(宮国)

宮古島の南部海岸に近い集落(宮国、新里、砂川、友利、保良、来間島、川満、久松)で毎年行われる祭祀で、ンナフカの神を迎えるンカインナフカと神さまを送るウサギンナフカに分かれて展開される祭祀がある。ンナフカの神は海の彼方から神の船でやってきて、島に着くと船を岩につなぎ止め、白いウマに乗って、それぞれ村々を廻って世(豊穣)を配り廻ると言われる。

宮国のンナフカの祭祀では、昔スカプヤーとナカグムイヤーの人々との間で神さまの宝を奪い合い喧嘩になったことから、今でも祭祀の中で喧嘩踊りがある。また、ンナフカの神さまが馬に乗って廻るさまを称えて、ンマピラス(馬競争)が行われ、竜宮から持ち帰ったルリ色のツボにまつわる儀式等が展開される。

## ③ 来間の豊年祭

ヤーマスプナカと称して毎年行われる豊年祭り。昔、来間島はセンニンバラ(千人原)と呼ばれるほどの人々が住んでいた。ある年、飢餓があって、神さまの祀りを行わなかった。すると神さまは怒って、大きな赤牛に化けて現れ、島人をことごとくかっさらって、竜宮の牢屋にぶち込んでしまった。

ある女性が太陽の光で感染し大きな卵を三個産んだ。この卵から三人の男の子が誕生した。この子らは日に日に大きくなり、人の居なくなった来間島に渡り、人々をかっさらっていく赤牛をねじ伏せてしまう。赤牛が神さまである事を知り、神さまと豊年祭りの復活を約束し、来間の島建てをする。三人兄弟は島の神として祀られ、長男の家をスムリャー、次男の家をウプヤー、三男の家をヤーマスヤーのそれぞれの家でマスムイ(新生児の誕生祈願)や神さまを称えるピヤーシなどが行われる。雨乞い座と呼ばれる広場では村を挙げての豊年祭りが展開される。

## ④ 狩俣の夏プーイ・ウヤガン

狩俣集落の始まりは、現在大城御嶽に祀られているテラヌプズによって村建てされたといわれる。

昔、テラヌプス(女神)は大浦集落の東方の荒原に天降りし生活に必要な水を求めて旅をする。狩俣集落の北海岸添いにある磯井の水を求めて、永住の地と定めた。そして、磯井から少し離れたフンムイに住居を構え、その後、嶺を越えた南側に移って住まいを構えた。これが現在の大城御嶽である。

ある夜のこと、どこからともなく男の神様が現われて一夜を共にした。その後も若者はやってきた。そのうちテラヌプズは身重になった。しかし、若者は自分の素性を教えてくれなかった。

ある夜、テラヌプズは繋ぎ合わせたブー(上布の原料・チョマ)を針に通して若者の髪に差して帰した。翌朝、テラヌプズはブーをたどっていった。ブーは磯井の近くの岩屋に入っていた。それだけ見届けるとテラヌプズは帰ってきた。

それから数か月して女の子が生まれた。テラヌプズは四日目に子供を抱いて磯井の岩屋に行き、「今日で4日目になりますので、あなたの情けで、この子に四日水を浴びせて下さい」と告げられた。

すると、岩屋から大蛇の尻尾がスルスルと出てきて、磯井の水をこの子に三回かけられ、また、元の岩屋に入られた。この子は後に、マヤーマツミガと名付けられた。この大蛇に姿を変えた神様は、後にアサティダと称され大城御嶽に祀られた。

テラヌプズの子供、マヤーマツミガから幾世が経ってウプグフマダマが生まれた。ウプグフマダマには長女マバルマ、長男マヤーマト、次男ユマサイ、次女ススミガ、三女マカナス、四女マバラス、五女マーズマラの二男五女の七名の子が生まれた。しかし、次女、三女、四女、の3名は幼児の時亡くなった。このことを神の言葉ではカンヌサーと言う。五女マーズマラは後に狩俣村の首長となり、女傑として名をとどらかせた。

このように、テラヌプズの村建てに始まり、様々な世相を経て、現在の狩俣集落がある。狩俣には祭祀集団として9カ所のムトゥ組織がある。中でも村落の祭祀では4ムトゥ(ウプグフ・シダティ・ナーマ・ナーンミ)が主な祭場となる。その中ですべての祭祀の中心を担うのがウプグフゥムトゥである。狩俣の始祖神テラヌプズという女神、男神アサティダを祀る。

## ⑤ 多良間島シツプナカの由来

ウイグスク金殿の畑の粟が収穫間際に何物かに荒らされ採られてしまう。そのことが二、三年続く。金殿はある晩、粟畑の中に隠れて番をしていた。すると、夜半になると裸の大男の人たちが長い棒を担いで現われ、粟を刈り取っていた。金殿は男の人たちに声をかけると「わしらは神さまの使いの者、君らは神さまが豊作をもたらしているのに感謝がないので、見せしめにこんなことをしているのだ」という。金殿はわけを知り、人々にそのことをつげ、神さまへの感謝の祭を始めた。金殿を称えるニーリーや神さまへの感謝のピヤーシなどが歌われる。

## ⑥ 大浦の竜宮ニガイ

昔、戦乱を避けて支那から兄妹が流れてやってきて大浦の島立てをする。兄をウプラダス、妹をマジュルンマと呼び神さまとして祀り、竜宮ニガイには里帰りをする神さまにお土産を供え送り出し祈る。

# ［視察資料］伝承の地を訪ねて

**1. 野原岳の霊石 → 2 大嶽城跡 → 3. ピンザアブ遺跡 → 4. ウイピヤ(上比屋山)御嶽 → 5. ピダヌマツカマ御嶽 → 8. 津波石（新里元島） → 9. 宮国元島・10.スカプヤー御嶽**

## 1. 野原岳の霊石

大嶽城の城主、大嶽按司が城の守護神として霊石を祀ったと言われる。霊石は珊瑚石灰岩で直径110㎝で高さは135㎝の円柱形である。この霊石は宮古12方位の神々の集まる所だとも言われる 昔、野原部落の子守が、子守をしている子が8才までの命だと守護神から告げられる。この子の母親は守護神の教えに従って、一年に一度、神々が集まる霊石の所で、子供の寿命を延ばして貰うようにお願いする。神様たちは協議して8の上に8を置いて88才まで命を延ばして貰う。米寿の由来という話である。

## 2. 大嶽城跡

14世紀の中頃、当時宮古島に猛威をふるっていた与那覇原軍に滅ぼされた大嶽按司の居城の跡である。大嶽按司の死後、長男のピギタリユーヌヌスは戦乱の世を嫌って城を離れ農業に励んだ。次男の知 按司は与那覇原軍との戦いで東門(中御嶽）を守り、三男の金丸金按司は西門(西御嶽）を守り、共に戦死した。一人、戦火を逃れたピギタリユーヌヌスは、後に野原村の再興の基礎を築き、人々から”ユーヌヌス”として大お嶽(ウプウタキ)として祀られるようになった。 関連遺跡として前井、後井(ツガガー）石畳の道などがある。

## 3. ピンザアブ遺跡

ビンザアブは2万年前の旧石器人の人骨化石や古生物の化石が大量に出土した洞穴である。ピンザアブの人骨は中国広西省柳江県の石灰岩洞穴から他の動物化石とともに発見された柳江人と類似すると言われる。柳江人は4万年前の旧石器人である。ピンザアブ人は後頭部に三角のインカ骨を有し2～2.5 万年前である。沖縄では山下洞人(3万年前）、港川人(1.8 ～2万年前）などがある。 ピンザアブから発見された動物化石はミヤコノロジカ(大型鹿）、イノシシ、リクガメ、ネズミ類、ヘビ類、ハブ、トリ類、カエル、大型ヤマネコなどが大量に出土した。

## 4. ウイピヤ(上比屋山)御嶽

解説ナシ

## 5. ビダヌマツカマ御嶽

太陽が東平名崎のパナリ村を足で踏み付けへし折った。パナリ村のある岬は、パキーッ、バリバリと折れ南の洋上を漂った。

その日、砂川村には浜のマツカマという美しい娘が機織りをしていた。ちょうど目の前の海に島が流れてきてヨンシー岩に引っ掛かったので、母親は「マツカマ、マツカマ、あの島を早くつかまえなさい」と叫んだが「今少し待って、もうちょっと織ってから行くよ」と母親と言い合っているうちに島は再び南の洋上を漂い、今の来間島がこの流れてきた島だと言う。

御嶽の南東の海岸の岩の上にはマツカマが機織りしていたと言われる場所があり、そこには、足をかけた跡や竹を差し込んだ穴などがあると言われる。また、砂川神社に祀られるスマヌヌスの誕生についての伝承としては次のような話がある。

## 6. 砂川の島ヌ主の誕生

昔、ピィダ(浜)のマツカマの家の裏手には小さなカフツ(屋敷内の畑)があった。カフツにはブー(上布の原料チョマ)を植えてあった。夜な夜な、このブーの畑に、何者かが現れ、ブーは踏み倒され荒らされていた。

竜宮からザン(ジュゴン)という生き物がブー畑に現れ、寝ころび体をこすりつけ、人間の男に化身してマツカマの所に通っていた。竜宮神とマツカマは親しく付き合い、最初は男の子を、次に双子の女の子を産んだ。この男の子が砂川神社に祀られるスマヌヌスであり、双子の女の子は、のちに女傑としてしられるアウガマ・クイガマ姉妹である。砂川集落にはザンガマヤーと呼ばれる屋号があり、この家系はザンを食べないのだという。

## 7. ティダ井　宮古方位の神々の誕生

新里元島には大小数ヵ所の井戸がある。西元島には近年まで生活用水として使われていたキャーザ井がある。東元島にはブーンー井、ティダ井などがある。川のない島では湧き水が唯一の飲み水である。 ティダは太陽のことである。元島遺跡から太陽の真向かいにこの井はあることからこの名が付いたと思われる。しかし、それだけではない。当時の人々の太陽との深い関わりを示している。

昔、ある娘が親主の家に奉公していた。娘は金もなければ、着る物もない貧しい者の子であった。それで、小さい頃から奉公に出された。

ある日、娘は新里村の海岸にあるティダ泉に水汲みに行った。水汲みに行って娘は、用足しながら十三個の卵を産んだ。娘は卵を見ておどろき、枯草の中に卵を隠した。その後、泉に行くたびに卵の様子を見ていた。

そろそろ卵がかえる頃になり、娘がティダ泉に行くと、泉で水浴びをしている子供たちが十三人いた。

この子らは大きくなって、一人は世の主となってンマヌパ(南方)に、一人は風の主となってトゥラヌパ(東方)に、一人は帳簿の主となってサイヌパ(西方)に、また一人は命令をする

神さまとなってニヌパ(北方）に、こうして方角ごとに十三人は配られたということです。

## 8. 津波石(新里元島）

宮古島の南部に新里集落がある。新里は十四・五世紀の元島時代は海岸添えにあった集落である。元島の跡は遺跡として残り、その当時の人々の生活の痕跡を色濃く残しているこの遺跡からは中国製の陶磁器、小銭、鉄犀、宮古式土器などが豊富に出土する。遺跡内には、船の出入りを見守った遠見台、ブンミャー跡、ウリ井、ミヤカー、御嶽などがある。津波石はナガイムトゥ近くの浜、ナガイバーと呼称される浜にあり、砂川のナーパイでは、津波石の前でユークイをする。また、新里では竜宮ニガイはこの場所で行なわれる。

## 9. 宮国元島

現在、新里、宮国の海岸線をリゾート地となり昔の静かな佇まいは微塵もない。新里シギラビーチから宮国にあるドイツ村に向かう途中に宮国元島がある。この一帯は、十数年前は土地改良された所で広々と畑地であったがリゾート地に変わり、かろうじて残されたのが御嶽と井戸などの聖域である。この御嶽の中心はスカプヤー御嶽であり、道を隔てて浜の側にフナヤーがある。スカプヤー御嶽と隣接して、ナカグムイ、マイヌヤー、スカムトゥ、ウプザー、ナッファなどの御嶽がある。

## 10. スカプヤー御嶽（竜宮から持ち帰った瑠璃色の壷）

昔、荷川取村にマサリャという漁師がエイという魚を釣り上げる。エイはたちまち、綺麗な女に変わり、マサリャと結ばれる。エイは竜宮の姫であった。それから数か月がたち、子供たちに誘われて竜宮に行く。マサリャは竜宮で楽しい三日三晩を過ごしお土産に瑠璃色の壺を貰う。マサリャが島に戻ると三年と三ヶ月が経っていた。この壷には不老長寿の酒が出てくる壷だ。マサリャはこの壷を畑のフサジラ(枯草の山）の中に隠して酒を美味しく頂くのであった。

ある日、妻がマサリャの後をつけて畑に行き、酒を飲んでいる所を、ソーッと近づき、「コラッ、何を飲んでいるのですか」と驚かせた。とたんにその壷は白い鳥になって南へ南へと飛んでいってしまった。

その夜、スカプヤーの主人は、白い鳥が飛んできて庭のデイゴの木に泊り瑠璃色の壷に変わる夢を見た。また夢の中で白い髭の老人が現われ、「白鳥は富貴な神なので、心身を清めこの瑠璃色の壷を大事に祀ることによって、お前は富貴な身となろう」と告げられた。

主人が、朝早く庭のデイゴの木を見てみると、不思議なことに瑠璃色の壷があった。それで、スカプヤーの主人は、この瑠璃色の壷を大切に家の家宝とした。

ある夜、主人は大世積綾船が海の彼方からやってきて、フナヤーバに着き神歌を歌い、白い馬で島に上陸し何処へともなく消えて行く神々を見た。

このことがあって、スカプヤーの人々を中心にしてンナフカ祭りが始まったと言う。

# 『宮古の祭祀に託された神話』講座について

太陽（てぃだ）が案

【アンケートについて】

・座学講座終了後(視察出発前)に提出してください。

【保険について】

・保険は講座終了の帰宅までの18時となっています。

・対象範囲は人に対する傷害保険です。病院で診察することで保険対象となります。**(車の物損は対象外)**

・ケガ等された場合、速やかに病院を受診し、治療費を支払い、領収書を受け取った後、参加者本人が　保険会社へ申請となります。

**[保険会社：　　]**

**トラブルが起きた際には　　まで連絡ください**

【野原へ霊石の移動】

**宮古合同庁舎 → 宮古島市役所 → バッシライン(食堂) →(右折)→ ドンキホーテ前通過 → あたらす市場前通 → ファミマ(コンビニ・鏡原) →(右折)→ … → 野原岳の霊石**

※道順に添って行きますと曲がる回数も少なく、11分ほどで着くようです(Googleマップより)

**1.野原岳の霊石**　**2.大嶽城跡**　**3.ピンザアブ遺跡**　**4.上比屋山遺跡**

**5.ピダヌマツカマ御嶽**　**8.津波石**　**10.ハガンマー御嶽**

【学びのパスポートについて】

県民カレッジでは、宮古地区講座４回、沖縄本島よりサテライト講座6回(年間10回)開催されます。その講座を受講した際に、講座名、日時を記入し、学びの積み重ねを記録していく手帳です。

お手元にある用紙に、必要事項を記入していただくことで、講話修了までに発行しますので、是非申請してください。

**※１０月２５日(金)14:00～「古文書の読み方(琉球大学教授 麻生伸一)」、１２月１８日(水) 14:00～「Ocean to allを合言葉に人と海の架け橋へ 海の体験で世界をポジティブに変えていこう(沖縄県美ら海教育学校 星原貴保)」にライブ配信、各講座ともに１ヶ月前から新聞等で周知予定**

# 講座：『宮古の祭祀に託された神話』

講師・宮古伝承文化研究センター
　　所長　佐渡山 安公
日時・令和６年 10 月 12 日(土)
場所・宮古合同庁舎５階 (研修室)
受付・13:30
講座・14:00 ～ 17:00

【講座の趣旨】

沖縄は日本本土ですでに失った神の世界観が、今なお生活空間に息づいている。それが聖なる地ウタキ(御嶽)を中心に行われる祭祀である。宮古には実に一千以上の御嶽がある。御嶽は神々が君臨する聖なる場所、集落によって様々な神々を配置し創造されてきた。

宮古では神話が豊富に語り継がれてきている。神話は御嶽、あるいはムラ（集落）、祀りの起源として語られ、祭祀の中で再生され伝承される。その世界を祭祀の映像を通して学ぶことができる。

【参加対象者】どなたでも

【タイムスケジュール】

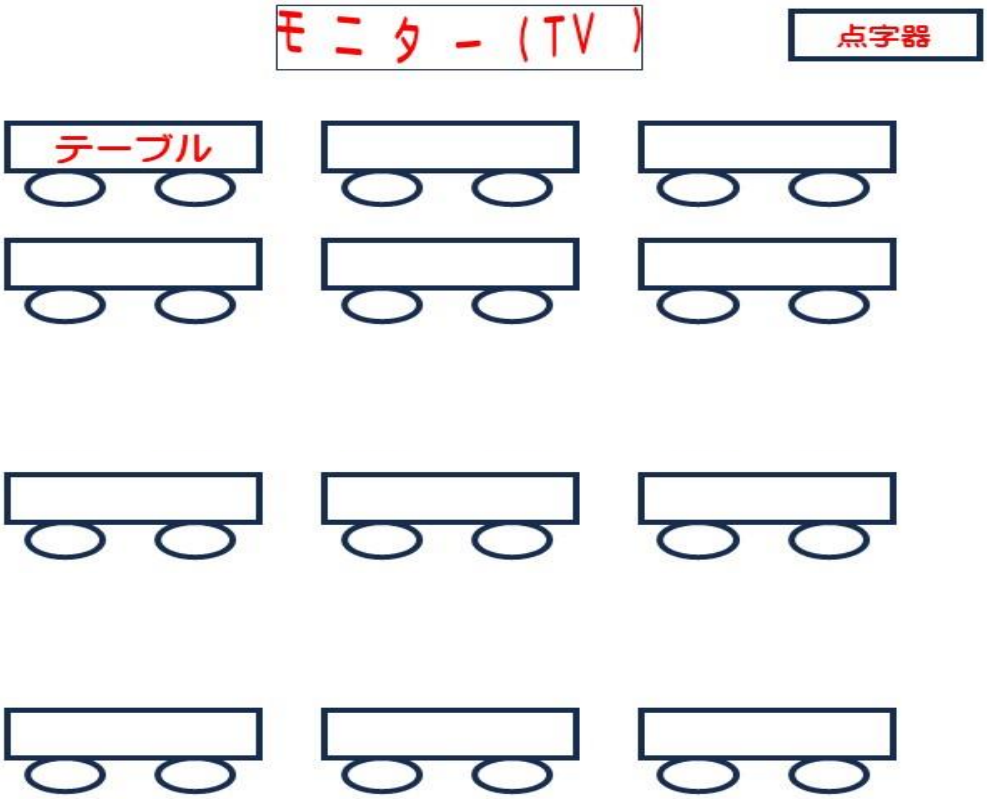
| | |
|---|---|
| 13:30 | 受付開始 |
| 13:45 － 14:00（15 分） | 県民カレッジについて説明 |
| 14:00 － 15:00（60 分） | 講話 |
| 15:00 － 15:30（30 分） | アンケート、移動など |
| 15:30 － 17:00（90 分） | 視察先 |

1.野原岳の霊石→2.大嶽城跡→3.ピンザアブ遺跡→
4.ウイピヤ(上比屋山)御嶽→5.ピダヌマツカマ御嶽→
8. 津波石 (新里元島) →9. 宮国元島→10.スカプヤー御嶽

【準備するもの】

・パソコン　・モニターＴＶ　・マイク＆スピーカー　・参加者への資料
・県民カレッジアンケート用紙

# 会場設営図




| マスコミ | 関係者 | 受け付 |
|---|---|---|

# 令和６年度 おきなわ県民カレッジ主催講座　アンケート

会場名（ 宮古教育事務所･研修室 ）　　【実施日：令和６年 10 月 12 日(土)】

## 講座名「宮古の祭祀に託された神話」

この調査はおきなわ県民カレッジ主催講座を受講された方を対象に実施するものです。今後の講座内容・運営の充実に役立てるため、ご協力をお願いします。

1. 年齢を教えてください　　＿＿＿歳

2. 講座開設の情報は、どのように知りましたか。１つ○でかこんでください。

(1)新聞　(2)ラジオ　(3)広報誌　(4)パンフレット

(5)チラシ( 場所：市役所・図書館・博物館・青少年の家 )　(6) 友人・知人

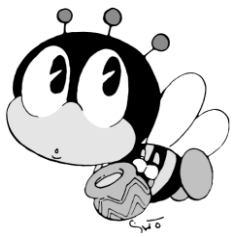
(7)インターネット　(8)その他（　　）

3. 講座を受けた動機についてお書きください。

4. 本日の講座はどうでしたか。

5. 開設の時期、時間、曜日についてご意見をお願いします。

6. 今後どのようなことを学習したいと考えていますか。



本日はご参加ありがとうございます♪